

第 II 部

CDに収録した
「会員通信」「歴史地理学会会報」のインデックス等

「会員通信」一覧

会員通信 (1号～73号)

号 (フォルダ名)	発行 年月日	通し頁	頁数	号 (フォルダ名)	発行 年月日	通し頁	頁数	号 (フォルダ名)	発行 年月日	通し頁	頁数
1	昭34.6.15	1～2	2	26	昭39.9.15	198～206	9	51	昭44.11.10	471～478	8
2	昭34.7.21	3	1	27	昭40.1.20	207～211	5	52	昭45.1.10	479～485	7
3	昭34.12.15	4～7	4	28	昭40.3.15	212～219	8	53	昭45.3.30	486～495	10
4	昭35.3.10	8～11	4	29	昭40.5.20	220～237	18	54	昭45.5.20	496～521	26
5	昭35.5.20	12～19	8	30	昭40.9.15	238～244	7	55	昭45.7.1	522～529	8
6	昭35.8.15	20～25	6	31	昭40.11.20	245～250	6	56	昭45.11.15	530～563	34
7	昭35.12.20	26～30	5	32	昭41.1.25	251～256	6	57	昭46.1.15	564～571	8
8	昭36.3.1	31～38	8	33	昭41.3.15	257～265	9	58	昭46.3.10	572～582	11
9	昭36.5.25	39～47	9	34	昭41.5.20	266～284	19	59	昭46.5.15	583～610	28
10	昭36.7.20	48～53	6	35	昭41.9.15	285～294	10	60	昭46.9.10	611～628	18
11	昭36.11.20	54～62	9	36	昭41.11.20	295～300	6	61	昭46.11.10	629～639	11
12	昭37.1.30	63～69	7	37	昭42.1.20	301～309	9	62	昭47.1.15	640～648	9
13	昭37.3.25	70～77	8	38	昭42.3.10	310～315	6	63	昭47.3.5	649～659	11
14	昭37.6.15	78～91	14	39	昭42.5.20	316～337	22	64	昭47.5.10	660～689	30
15	昭37.9.30	92～96	5	40	昭42.9.20	338～347	10	65	昭47.8.20	690～701	12
16	昭37.11.20	97～104	8	41	昭42.11.15	348～357	10	66	昭47.11.10	702～718	17
17	昭38.1.15	105～113	9	42	昭43.1.30	358～368	11	67	昭48.1.10	719～728	10
18	昭38.3.20	114～123	10	43	昭43.3.20	369～374	6	68	昭48.3.1	729～738	10
19	昭38.6.10	124～139	16	44	昭43.5.15	375～395	21	69	昭48.5.15	739～766	28
20	昭38.9.30	140～146	7	45	昭43.7.1	396～402	7	70	昭48.7.5	767～790	24
21	昭38.11.30	147～150	4	46	昭43.10.10	403～412	10	71	昭48.11.5	791～802	12
22	昭39.1.30	151～161	11	47	昭43.12.1	413～420	8	72	昭49.1.5	803～829	27
23	昭39.3.20	162～170	9	48	昭44.3.30	421～432	12	73	昭49.3.5	830～852	23
24	昭39.4.30	171～191	21	49	昭44.5.15	433～458	26				
25	昭39.6.20	192～197	6	50	昭44.9.1	459～470	12				

「昭」は「昭和」を表す。

「歴史地理学会会報」一覽

歴史地理学会会報 (74号～108号)

号 (フォルダ名)	発行 年月日	通し頁	頁数	号 (フォルダ名)	発行 年月日	通し頁	頁数
74	昭49.5.10	1～24	24	92	昭52.7.1	559～614	56
75	昭49.9.10	25～45	21	93	昭52.9.1	615～652	38
76	昭49.11.20	26～69	24	94	昭52.11.1	653～692	40
77	昭50.1.10	70～83	14	95	昭53.1.1	693～728	36
78	昭50.3.3	84～96	13	96	昭53.3.1	729～772	44
79	昭50.5.1	97～126	30	97	昭53.5.1	773～798	26
80	昭50.7.1	127～154	28	98	昭53.7.1	799～862	64
81	昭50.9.1	155～194	40	99	昭53.9.1	863～888	26
82	昭50.11.1	195～220	26	100	昭53.11.1	889～928	40
83	昭51.1.1	221～242	22	101	昭54.1.1	929～968	40
84	昭51.3.1	243～274	32	102	昭54.3.1	969～1010	42
85	昭51.5.1	275～300	26	103	昭54.5.1	1011～1036	26
86	昭51.7.1	301～348	48	104	昭54.7.1	1037～1094	58
87	昭51.9.1	349～402	54	105	昭54.9.1	1095～1134	40
88	昭51.11.1	403～448	46	106	昭54.11.1	1135～1162	28
89	昭52.1.1	449～494	46	107	昭55.5.20	1163～1202	40
90	昭52.3.1	495～524	30	108	昭55.3.1	1203～1240	38
91	昭52.5.1	525～558	34				

「昭」は「昭和」を表す。

「会員通信」1号

会員通信 才一号 (六月十五日)

格闘となりしたが、お返りごさいまは、一九五九年才一回の会員通信を送ります。
才一号は手許に届いたこと存じます。御不届の点が多々あると存じますが、大方の御教示を
たいては才二号には格闘の進歩をしたいと思います。

- (1) 体裁について
(2) 表紙は「日本ア史地理学研究会紀要才〇号」とすること
(3) 内訳書について
(4) 論文、資料、紹介、学界展望、隣接科学の成果の批判、ア史研の年同動向の詳説、例会
大会の発表要旨などを掲載して年報的性質を濃厚にすること
(5) 会費の現行三〇〇円を、定率分を含めて適正額に増額すること
(6) 内容について
(7) 紀要はテーマをきめて時評にする
(8) ミスプリントが多いから慎重に校正をすること、そのためには初校を執筆者に願ひ、原
稿マシを早くして急務をもつこと
(9) 「日本におけるア史地理学の発達」のテーマは今後も重視して、明治以降にだけかま
す、さらに古く遡って究明すること
(10) 外国の動向は常に掲載すること
(11) 紀要テーマを早く会員に通知すること
(12) ア史地理学一紙や短紙の論文に対する批評など

会員諸君からの御批評も拝見致します。
とくに海軍時間の不足は、ミスプリントが多かったことは、執筆者・会員諸君にお詫びいたしま
す。後日訂正いたす所存です。
「紀要才二」のテーマ「地域の姿貌」
このテーマに関する理論的研究でも史証的研究でも自由で選択されたい。目的はア史研に
おける「地域」の姿貌に関する見解、その把握の仕方について、ア史研の全能力をあげて、学究発表
にわたるこの問題についての取組を奨励し、その発展方向を共通に理解したい。このテーマは四月の会
会において発表されたものであり、改めて会員諸君にお知らせいたします。
紀要執筆上の注意、ノ、四百字詰原稿用紙三〇、四〇枚、四角写眞三枚以内、
ス、流石送込の切、七月末日、原稿提出の切、十月末日、

○会費のおしらせ
別紙のように、六月二十七日(上)に例会を立教大学アホール会議室で午後二時より開きます。
発表者は、赤尾倫介氏「戦前戦中におけるア史地理学研究の動向」、赤尾氏に代り昭和十一年前夜ア史
地理学の本質及び方法についての革新的立場を発表して注目されましたが、今回はそれを学究的に解明し
たことにも、氏の提議されるア史地理学理論を提示しようとするものです。
○発行会費は三〇〇円ですから、未納の方は急務を願ひたいです。また入会希望者をどしどし御紹
介下さい。
○紀要第一集が郵送箱です。購入希望者を御紹介下さい。(守長の図書館やテキストにでも)

日本ア史地理学研究会

「歴史地理学会会報」74号

歴史地理学会会報

74 昭和49年 5月10日

○会長就任のあいさつ
「第七一回、第七回例会のおしらせ」
「紀要第一集の出版募集について」
第三、第七回例会、大会の報告
四、会費の訂正について
五、昭和四九、五〇年度役員
六、おしらせとお願い
○審判
○会長就任のあいさつ(藤岡謙二郎)
前会長長崎善雄氏の解任に伴い、今般はからずも私が新会長に
選ばれました。私には人徳、常識兼ねた先期会長の度量もなく、
御辞退申されたことには、誠に遺憾な思いがたし、東日本と西
日本が一体化されたことと日本の歴史地理学に於けるために
は非才をかえり見ず、関西の在任者であつても、この御引受け
下さいとお願いいたします。
本歴史地理学会はいりまでなくはなま田寛一、吉田豊一、
西先生、今なお御責任で休みの指導に当たられる小牧正
先生を名責役員にあおぎ、渡部幸雄、菊池利夫氏等東京在住の歴史
地理学者を中心として、九五八年四月の日本大学における第一
回総会学術大会をもって正式に発足したわけであり、爾来満
「六六」、その間七回の「会員通信」をもって「会報」にかえ、
は、同回の研究発表をもちよびました。さらに各年度の総会に
おける研究発表は本学会の「歴史地理学紀要」として、
これはたゞに十六冊をかまき、戦後の学術に貢献して来たこと
はさてその人々の知るところであります。この間御委員長や機
舌会長の試みられた学術会報の御努力はもとよりのこと、各常
任委員の方のつくられた御責任もまた大に功をなした。たと
おされれば、くりかえすがごとくこの度一評議員(一)が、た
だしが御前任委員であり、水戸本会の業務を担うて来られ
大田田一氏の御探訪にも、に学会の運営もまかされることにな
り、その責任の重大さも御感致しす。幸ひ、会員の御協力で御支
援にすがつ、御力ならぬ限りたくらみます。前会長長崎
御教諭を御いび致しお詫言じます。
すでに十数年の歴史もは放しませんが、従来と本学会員の
一員として感じてきましたことは、日本地理学会や人文地理学会
との懇切であり、また先学における歴史地理学の隣接科学の研
究、会員の増加等、歴史地理学そのもの地理学における位置付
けは、学会として誇すべき点もいと多し、同人は承り承り
ましたが、これらの点もまた先学の御功は、会員の御探
訪

一、第七一回、第七回例会のおしらせ
左記の要項で第七一回および第七二回例会を開催します。
から、
ついでに御出席下さい。
五月三日(土)午後四時より、東京教育大学理学部三三二五
号室(地下鉄茗荷谷駅下車)において、「
(動物組より来た論文申請書の作成について)
○第七二回例会
五月三日(土)午後二時より、立教大学五号館会議室において、
「八国協定の地域の展開、二百年後の場合」 増島 行雄
「フィールドワークの場における宗教と地理学」 土岐 健生君

二、紀要第一七集の原稿募集について
本会発行される本会歴史地理学紀要第一七集のテーマは「政
治区域の歴史地理」と決定いたしました。左記要項により寄稿をお
願ひ致します。
一、長さ 四〇〇字詰原稿用紙五枚以内。縦書き。
二、図表 表裏は一枚にして三枚以内。図の大きさは
一センチ以内。墨書き、ただし文字は鉛筆書きで
もよい。
三、表 大きな複雑な表組は採用しない。
表の数は三枚以内。
四、注 注を示すナンバー(一)の形式で本文中明確
に示し、注そのものの位置は本文末尾または各節
末尾とする(脚注並列のものも参照されたい)。
五、地形図 「わり法」は用いない。「行」に書く。
六、図表 図表は製図部分の四角を示した線を抽出して示す

一、日本ア史地理学研究会
「会員通信」1号
「歴史地理学会会報」74号